

# 道徳教育指導論－4

10/18 担当：鵜殿篤

<http://meganeculture.boo.jp/2019/09/19/doutoku/>



## ■前回のおさらい

- ・西洋における道徳の歴史と思想。

## ■出席とアンケート

- ・日本の道徳思想に関する知識をどれくらい持っていますか？



## ■道徳に関する歴史と思想(日本編)

### 前近代の道徳

- ・神道(神社)
- ・仏教(寺)：ゴータマ・シッダールタ(インド)、聖徳太子
- ・儒教(学校)：孔子、孟子(中国)

### ▼神仏習合

- ・明治維新によって、神仏分離。

### 教育勅語(1890-1945)

- ・1891年頒布、1948年失効確認(衆議院、参議院)。
- ・元田永孚(もとだながざね)と井上毅(いのうえこわし)が中心となって作成します。儒学主義と近代主義がミックスされた内容になっています。

### ▼教育勅語の歴史的意義

- ・教育勅語の約60年間は、日本の長い歴史の中でどういう特徴があるのでしょうか？
- ・国民統合：日清戦争と日露戦争

### ▼教育勅語の失効

- ・1948年、衆議院と参議院での決議。何が問題だったのでしょうか？
- ・問題は「主権在君」と「神話的国体観」にあります。

### ▼教育勅語の構造

- ・3つのパートに分けると、理解しやすくなります。
- ・教育勅語には「いいことも書かれている」とか「普遍的なことも書かれている」と主張する人々は、第二パートにしか注目していません。しかし、もし単に「いいことも書かれている」だけで良いとしたら、聖書でもコーランでも論語でも良くなってしまいます。な

ぜ、聖書でもコーランでも論語でもなく「教育勅語」である必要があったのでしょうか。

・教育勅語の性格を理解する上で決定的に重要なのは、第一パートと第三パートです。第一パートの理解を抜きにして第二パートを語ることはできませんし、語る意味がありません。

・第一パートを理解するためには、日本神話(とくに天孫降臨)に対する知識が不可欠です。

・第二パートの徳目は、「儒教」の伝統的徳目に近代主義を混ぜたものです。そもそも、教育勅語は本当に日本の伝統に合致していたのでしょうか？

### **教育基本法と学習指導要領(1947年版)**

・主権在君→主権在民

・神話的国体観→基本的人権

・1947年版学習指導要領には道徳科がありませんでした。

### **逆コースと学習指導要領(1958年版)**

・1958年版学習指導要領には「特設道徳」が登場します。

・中国(1949年)と朝鮮半島(1950年)の情勢が変化し、冷戦体制によって、GHQの方針が転回しました。

・サンフランシスコ平和条約(1951年)。

・池田ロバートソン会談(1953年)

・教育二法(1954年)。「教育公務員特例法の一部を改正する法律」と「義務教育諸学校における教育の政治的中立の確保に関する臨時措置法」。

・地方教育行政の組織及び運営に関する法律(1956年)。

## **■復習**

・教育勅語の意義と限界を自分なりに説明できるようにまとめておこう。

・1958年に「特設道徳」が登場した歴史的経緯を押さえておこう。

## **■予習**

・「アイデンティティ」や「自己実現」という言葉の意味を調べておこう。